令和６年度　　**長行小学校　学校経営案**

学校教育目標

校長　花田　博之

自ら考え、判断し、人とともによりよく生きようとする
心豊かな子どもの育成

めざす学校像

〇子どもが目を輝かせ、笑顔あふれる学校
〇一人一人の子どもに確かな学力を付ける学校
〇子どもや保護者、地域が信頼できる学校

めざす児童像

〇きまりを守る子ども
・学習規律の定着
・学校生活のきまり（かがやけ！長行っ子）の定着
〇粘り強くがんばる子ども
・振り返り、繰り返す学習の充実
・自分を信じ、あきらめない心の育成
〇よく考え、行動する子ども
・時と場に応じた言葉遣いや挨拶
・自己の役割の自覚と自己への信頼の育成

めざす教師像

〇子どもの人権を尊重し、教育的愛情豊かな教師
〇キャリアステージを見定め、プロ意識をもつ教師
〇チーム長行に向け協働する教師

楽しく分かる授業　　「みそあじっこ」の推進

学校経営の重点　「そろえる　本気」

（教師）
〇長行の子どもたちを育てたい、よい学校にしたいという熱い思い。
〇学校全体で行う取組をそろえる。《主題研（授業改善、補充学習）の充実》
〇学年での取組をそろえる。《学習規律、持ち合い授業》
（児童）
〇自分たちの意見を尊重してもらえる喜び
〇よい学級、よい学年、よい学校にしたい、よい人間関係を築きたいという思い。
〇グランドルールをそろえる。《くつ、時間、名札、そうじ、あいさつ、言葉づかい》

全職員で組織的・継続的に統一した支援を本気で行う

◆「こどもまんなか」を合言葉に、居心地のよい学校
◆　安全・安心な学校づくり（いじめ問題への対応　長期欠席・不登校への対応）
◆相互のよさを認め合い、一人一人が大切にされる人権教育の推進
（心の育ちにつながる体験や交流、見直し）
◆全ての子どもの学習意欲を高めるための授業改善の推進（最後まで考え、参加する）
◆ICTの効果的な活用（授業場面での活用、ドリルでの活用、オンライン授業等）
◆自己の成長を感じ、感謝の心を育て、表すことができる場面づくり

〇「みんなで育てる」
全ての子どもを全ての職員で育てる　　同僚性の醸成
心配なことや困ったことを一人で抱え込まず相談　　人の力を活用する力（頼る力）
〇 チーム学校
学校内、地域、保護者、保幼中との連携、協働による学校運営
〇 子ども愛、学校愛、地域愛
愛情あふれる活力あふれる学校をめざしましょう

【本年度の学校経営の重点を達成するための努力点】

子どもを「育てる」学校から子どもが「育つ」学校へ

全ての子どもが行き（生き）がいのある学校

全ての教職員が働きがいのある学校

全ての保護者・地域の方が頼りがいのある学校

【次期教育大綱】5つの柱

① 全てのこどもにとって、「居心地のよい学校」

② こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくります

③ 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進めます

④ 自律的で特色のある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高めます

⑤ 地域とのつながりの中で、社会全体でこどもを見守り育てます

（1） 学年・学級・教科等経営の充実

○ 指導すべき内容が適切に指導できるように学習指導計画を確実に行う。（近接学年、同学年会の充実）

○ 専科授業と持合い授業の効果的な実施

・ 全ての学年で持ち合い授業を実施し、風通しよく、子どもの話ができる職員室

○ 研修を通して資質・能力の向上を図る。（若年研修、校内研修、自主研修）

・ メンタリングによる研修の実施　「教員の資質向上に関する指標」に基づく日常的な OJT の推進

○ 環境の荒れは学校の荒れ。まずは教師から

（2） 確かな学力の育成

○ 「見える学力」より「見えない学力」を大切にする。

・「人を大切にする力」「自分の考えをもち、伝える力」「何にでもチャレンジする力」

○ 日々の45分間の授業の積み重ねこそ最も大切

・ 児童が学習のまとめを自分で書くことができる授業を

※ ICT の積極的活用（ドリル、デジタル教科書、補充学習等）

○ 基礎的・基本的内容の確実な定着

・ 長行タイム、パワーアップタイムの有効活用、ドリルアプリなどを活用した補充学習を行い、個に応じたきめ細かな指導に努める。

○ 「身近に本、気軽の読書」を合言葉に読書活動の充実を図る（読書センターとしての活用）

○ 主題研究：「集中して物事に取り組むことができる子どもの育成」

～中長期的な効果の検証と、コグトレの見取りを授業に生かす取組を通して～（2023年度）

（3） 豊かな心の育成

○ 「人権教育の指導方法の在り方について［第三次とりまとめ］」等の趣旨を踏まえて、「人権教育は教育活動の基盤である」との認識で組織的・計画的に取り組む。

○ 関係団体の研修会への参加、「私たちと同和問題」「LGBTQ の子どもたちへの支援ハンドブック」等を活用した研修。

○ 人権教育教材集『新版いのち』や「子どもつながりプログラム」の計画的・効果的な活用

○ 「中学校区人権教育研究協議会」を位置付け、相互理解と連携

○ 家庭との連携をより深め、家庭生活改善に向けての取組を進める。

○ 学校や地域の実態を踏まえて教育課題を明らかにし、人権教育推進を図り人権尊重の精神を高める。

○ 教職員が人権尊重の理念を十分に認識し人権感覚を身に付ける。

○ 道徳科での ICT 活用「考え、論議する道徳」の授業（様々な場面での価値づけ）

・ 年間計画の確実な実施及び、道徳の時間の指導方法の工夫改善

・ 書く活動・話し合う活動・思考ツール・ゲストティーチャー等

（4） 特別支援教育の推進

○「北九州特別支援教育推進プラン」に沿った体制の整備と特別支援教育の充実

○ 児童の実態を十分に把握し、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援体制と個別の教育支援計画・指導計画等に基づいた指導に努めるとともに保護者、関係機関との連携を深める。

○「交流及び競合学習」の実施方法の工夫 特別支援教室の実施

（5） 長期欠席、いじめ等へのきめ細かな対応

○「誰一人取り残さない」SDGsの取組

○ 児童と教師の信頼関係と児童間の好ましい人間関係を育む。児童の心のサインを見逃さない。

・ 心の居場所づくり。SC や SSW、教育支援室、フリースクール、放課後デイ、主治医、外部機関等との連携。

○ 児童の状況を把握し問題行動の未然防止。問題事象の早期発見・対応。危機意識をもって常にアンテナを高く張る。

○「子どもつながりプログラム」や「コグトレ」の効果的な活用

○「いじめはどこの学校でも起こりうる」「いじめはしない させない 許さない 見逃さない」という強い意識

○ 「いじめ防止アンケート」「なんでも相談」週間の実施

○ 迅速で確実な保護者対応。先手必勝、即日即決。児童への確かな指導。継続的・積極的な家庭訪問。

○ 問題解決に向けて組織的な対応。まず管理職へ一報を。（不登校対応、虐待対応）

（7） 自分への信頼、自己有用感を育む特別活動

○ 個性の伸長を図り集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

○ 心の育ちにつながる体験活動、交流活動を行い、振り返りを丁寧にすることで自己の成長を感じさせる。

（8） 健やかな体の育成

○「北九州市体力向上プログラム（体育『好きっちゃ』プログラム）の活用

・「運動が好き「体育学習が楽しい」と思える授業づくり

○ 生活習慣・運動習慣の確立に向けた協働的な取組（外遊びの励行・一校一取組の推進）

○ 栄養教諭を中心とした食育指導の充実

○ 養護教諭と中心とした保健指導の充実

・ フッ化物洗口事業

（9） 児童の安全の確保

○ 交通安全指導、登下校指導、休み時間の過ごし方の指導の徹底。怪我、事故の防止。

○ 防災・減災教育 「自分の命は自分で守る」「守られる人から守る人へ」となる子どもの育成

○ 防災避難訓練の実施、受け渡し訓練等「災害時連絡カード」の活用

○ 重篤な学校事故発生⇒適切な応急措置や安全措置の実施

○ 食物アレルギー事故及び感染症対策

（10） 業務改善・働き方改革（健康第一・家庭第一）

○ 健康第一、元気に働けることが大切

○ 積極的な効率化と削減する勇気（今まで通りの発想をなくす）

○「学校における業務改善プログラム（第 3 版）」の推進

○ 子どもと向き合う時間、教材研究する時間の確保

○ 業務改善実践推進校としての実践

○ 働き方の自己マネジメント、定時退校日の確実な実施

（11） 家庭・地域・学校との連携

○ 地域の協力を得て、積極的に学校教育に生かす

○ PTA 活動や地域活動への積極的な参加を推進

○「地域学校協働活動」や「北九州市の企業による小学校応援団」等と連携・協働する取組の推進

○ 北九州市型コミュニティスクール（学校運営協議会）を設置し、地域・家庭・学校での熟議の充実